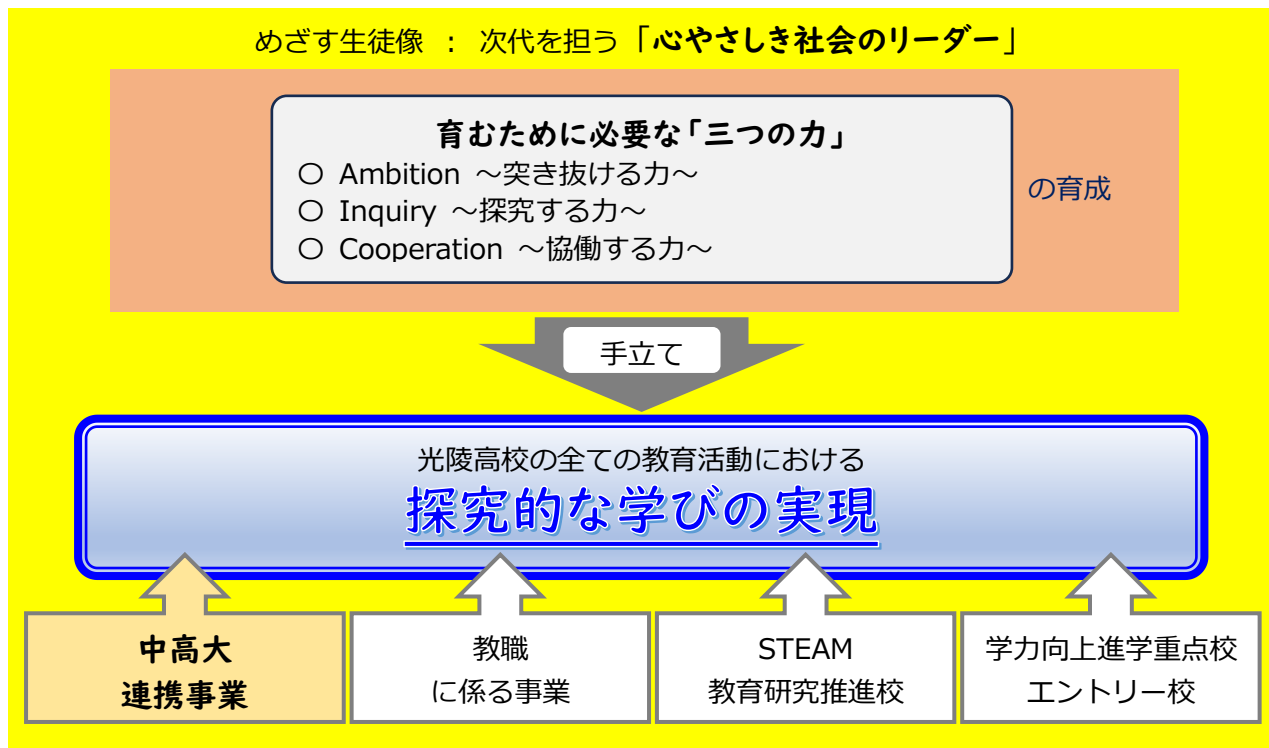


神奈川県立光陵高等学校とは（令和8年度版）

1 光陵高校は何を目指しているのか

「探究的な学びの実現」を、次代を担う「心やさしき社会のリーダー」の育成に必要な三つの力（突き抜ける力、探究する力、協働する力）を身に付けるための手立てとしている学校



2 光陵高校卒業後の進路の実現



現役合格状況	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
国立大学合格者中の難関大学（※）合格者率	18.2%	20.9%	30.0%	31.5%

※ 北海道、東北、筑波、東京、お茶の水女子、東京外語、東京科学（旧東京工業および東京医科歯科）、一橋、名古屋、京都、大阪、神戸、九州（横浜国立大学は含めず）

3 一般選抜基準の変更

令和8年度入学者から、学力検査を得意とする生徒にも光陵高校を受検していただけるよう変更

学力検査の比率 （特色検査含む）	54.5%（令和7年度入学者）	63.6%（令和8年度以降入学者）
---------------------	-----------------	-------------------

4 教職に係る科目の設置について

教員不足が大きな問題となっている昨今、高校生の中に教職に対する意識をできるだけ高めることにより、少しでも神奈川の教育力に貢献できる人材の増加につなげることを目標とした。

「教職基礎（1年次1単位）」及び「教職基礎演習（2年次1単位）」の履修者数（人）の経緯

科目名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
教職基礎	32	55	58	69	73	105
教職基礎演習	—	6	20	30	47	34
教職実践	—	—	—	—	—	29
合計履修人数	32	61	78	99	120	168

※ 令和8年度から3年次において「教職実践（2単位）」を新規開講

5 光陵高校の強み

Point 1

教職員の質の高さ

本校は、平成 19 年に発表となった中高大連携事業の実施計画に基づき、横浜国立大学及び同大学附属横浜中学校との中高大連携事業を展開している。本取組の中で人事交流も行っており、質の高い人事配置が実現している。

Point 2

教育研究校としての取組の推進

中高大連携事業は、探究的な学びの実現を軸とした教育研究を行うとともにその実践を図るという事業であり、本校はまさに県下屈指の教育研究校である。授業改善等に係る校内研修も頻繁に行われており、学校自体が学び合い高め合う教師の集合体となっている。

Point 3

探究的な学びの実現に向けた盤石の体制

中高大連携事業で展開している探究的な学びの実現を軸とした教育研究を基に、本校の総合的な探究の時間（光陵ユニバース：KU）における盤石の指導体制を構築しており、探究活動の質に関しては、本県のトップランナーとしての地位を確立している。（探究活動と学力の相関があることはすでに国からの公表もある。）

生徒は、このような体制の中で、ICT を有効活用しながら、研究内容に応じたフィールドワークを行うなど主体的に探究活動を行っている。

Point 4

教職関連科目の設置及び展開

前述した、令和 3 年度スタートの「教職基礎（1 年生 1 単位）」及び令和 4 年度からスタートの「教職基礎演習（2 年生 1 単位）」に関しては、年々受講者が増加しており、高校時代に教職に関する研究を行った生徒を対象とした横浜国立大学教育学部の総合型選抜における現役合格を近年多数輩出している。なお、令和 8 年度から開講となった「教育実践（3 年生 2 単位）」においては、更に教職に係る教育的知見を深めるための取組を展開している。

Point 5

光陵青春劇場の主役になる

本校は、他のどの学校にも負けない学校行事及び部活動の盛んな学校である。特に、体育祭（5 月）、光陵祭（9 月）、学芸音楽祭（2 月）の三大大事は、規模もレベルも高い。生徒全員が光陵青春劇場の主役としての 3 年間を過ごしている。

Point 6

将来のキャリア探求に関する絶好の場

本校は、キャリア教育に力を入れている。中高大連携事業の一環として大学の教員からの授業や講話を聴くことができたり、社会の様々な分野で活躍する多くの卒業生を招聘し卒業生によるキャリアガイダンスを開催したりなど、自己の将来のキャリア探求に関する絶好の場となっている。